

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	国語	科目	現代文B	学年	第3学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	精選現代文B 改訂版 (筑摩書房)				
副教材	「新国語便覧」 (第一学習社)						

学習目標	近代以降のさまざまな文章に触れて読解・鑑賞の能力をいっそう向上させ、認識力・思考力・感受性を養うとともに、現代社会の複雑多様な言語生活への適応を図り、人間性の向上に努める。現代の言語文化を享受できるような読書力を拡充し、人生を豊かにする。
------	---

	単元	主な単元の目標	教材	評価の観点					定期考査	
				①	②	③	④	⑤		
1 学期	4月 5月	作品読解への理解を深め、自分の考えを表現する。	・主人公の心理を情景描写との関係でとらえることで、文学作品の読解に関して理解を深め、それについて効果的に表現する。	小説 舞姫	○			◎	○	第1回
	6月	感性を磨く。	・随筆の表現を読み味わい、生きることについて考えを深める。	随想 後生の桜	○			◎	○	
	7月	要約力を磨く。	・接続詞の使い方に留意して要約する力を身に付ける。	評論 問われる「身体」の生命	○		◎	○		
2 学期	8月 9月	論理展開を分析する力を養う。	・段落構成に対する意識を持ち、本文全体の論理展開を分析する力を養う。	評論 〈私〉はどこへ行く?	○			◎	○	第2回
	10月	批評を通して理解を深める。	・現代について書かれた文章を読み、人間、社会、自然についての考えを深める。	評論 技術の変質と二十一世紀の課題	○			◎	○	
	11月	登場人物の心理変化を読み取る。	・登場人物の心理変化を読み取り、作品主題の普遍性を理解する。	小説 おどる男	○			◎	○	第3回
	12月	詩歌を読み味わう	・詩歌の背後に隠された作者の意図を鑑賞する。	現代の短歌	○	◎		○		
3 学期	1月 2月 3月	要約力を磨く。	・字数に合わせて書き分ける力を養う。	評論 ソメイヨシノ革命	○		◎	○		

学習の方法	授業では難度の高い文章を深く読み込み、内容を的確に理解していきます。教材によっては調べ学習や発表、スピーチを行います。また、グループ学習を行い、周りの人と話し合う機会を多く設けます。家庭での予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、どこが重要な点かをはっきりつかみましょ。年3回の定期考査や小テストを利用して、基礎学力を定着させていきます。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、提出物、小テストの成績などを総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力・理解力・聞く能力・表現力・語彙力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	国語	科目	古典B	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	2単位	教科書	精選古典B（東京書籍）				
副教材	「新国語便覧」（第一学習社） 新しい古典文法（東京書籍） 新明説漢文（尚文出版）						

学習目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする。
------	---

	単元	主な単元の目標	教材	評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	物語を読み味わう。	源氏物語	○			◎	○	第1回
	5月	文章を読み味わう。	漁父辞	○			◎	○	
		史話を読み味わう。	十八史略	○			◎	○	
	6月	随筆を読み味わう。	徒然草・玉勝間	○			◎	○	
	7月	俳論を読み味わう。	去来抄	○			◎	○	
		漢詩を味わう。	唐詩						
2 学 期	8月	評論を読み味わう。	無名抄・俊頼随脳 源氏物語玉の小櫛	○			◎	○	第2回
	9月	史記を読み味わう。	荊軻伝・韓信伝	○			◎	○	
	10月								
	11月	物語を読み味わう。	落窪物語・堤中納言 物語・源氏物語	○			◎	○	
	12月								
3 学 期	1月								
	2月	評論を読み味わう。	和歌というメディア	○			◎	○	
	3月								

学習 の方 法	文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、評論・文芸にかかわらず、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会をとらえて、班やクラスでの話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年3回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。
---------------	--

評価 の 仕 方	予習は当然行うものとして準備する。発表、話し合いなどの日常の取組についても評価の対象とする。よって、文法力・語彙力、漢文独特の句法・歴史、古典の知識（有職故実等）も鍛えておく必要がある。 定期考査による評価に加え、夏季・冬季の長期休業で与えられる課題（意見文、感想文、サブテキスト等）や平常の小テストの成績などを総合的に評価していく。
-------------------	--

評価の 観点	① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。）
-----------	--

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	世界史A	学年	第3学年	類型	II型
単位数	1単位	教科書	明解世界史A (帝国書院)				
副教材	明解世界史Aノート (帝国書院)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解する。 ・人類が直面する課題を政治・経済・社会・文化・生活など様々な観点から考察することによって、歴史的思考力を養う。 ・国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。
------	--

		学習計画及び内容		評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	2部 地球社会と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。 ・市場経済の世界化や米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、世界が大きく変容したことを理解する。 ・日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの国際社会における日本の役割について考察する。 	◎			○		第1回
	5月	2章 冷戦から地球社会へ			○		◎		
	6月	1節 冷たい戦争の時代				◎		○	
	7月	2節 冷戦終結への道のり			○		◎		
2 学 期									
3 学 期									

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ノートを活用して世界の歴史における基本的な事象・人物等についての整理・理解をしていく。 ・人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。
-------	---

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。 ・世界史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に判断して評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史B	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	3単位	教科書	詳説日本史改訂版（山川出版社）				
副教材	新詳日本史（浜島書店）		詳録新日本史史料集成（第一学習社）				

学習目標	我が国の歴史の展開について、世界史的視野に立って各時代の特色及び変遷を総合的に考察し、我が国の文化と伝統についての認識を深める。 また、歴史学習を通じて、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
------	--

	学習計画及び内容			評価の観点					定期考査	
				①	②	③	④	⑤		
1 学 期	4月	第6章 幕藩体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・桃山文化、幕藩体制が確立した時期までを世界史的背景と国内の政治、社会の動向と関連に着目して幅広く学習する。 ・幕藩体制の下で発展する農業や商工業、その他の諸産業の展開とその社会的な役割及び都市や農村で生み出された文化の特色を学習する。 ・農村を基盤とする幕藩体制が動揺していく過程と、社会・経済の発展の中で近代を準備する新しい要素が形成されてきたことを学習する。 			○	◎		第1回	
	5月	第7章 幕藩体制の展開			○		◎			
	6月	第8章 幕藩体制の動揺				○	◎			
	7月			◎		○				
2 学 期	8月	第9章 近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・開国後の我が国が国家的独立を維持しながら政治・経済・社会・文化の全般にわたってどのように近代化を推進したかを、多面的・多角的に学習する。 ・第一次世界大戦から第二次世界大戦の終結に至るまでの我が国の歴史の展開について、国内の動向と世界情勢との関連に留意し学習する。 ・第二次世界大戦後の我が国の民主主義国家としての再生の過程や政治の動向、新しい外交関係、日本経済の発展、国民生活の向上などを世界の動きと関連させて総合的に学習する。 			◎	○		第2回	
	9月									
	10月	第10章 二つの世界大戦とアジア		◎		○				
	11月	第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代			○			◎		第3回
	12月	第13章 激動する世界と日本 分野別総合問題演習				◎	○			
3 学 期	1月	分野別総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・マーク式の演習問題に取り組むことで、知識を整理するとともに、総合的な力の向上を図る。 			◎	○			
	2月									
	3月									

学習の方法	授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して日本の歴史の流れを整理・理解していきます。 人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 年3回の定期考査ごとに学習内容をまとめることは当然のこと、入試過去問題や模試などを利用して知識の整理をはかることが必要です。
-------	---

評価の仕方	定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。日本史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に判断して評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	地理B	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	3単位	教科書	新編詳解地理B改訂版(二宮書店) 詳解現代地図(二宮書店)				
副教材	新編地理資料(東京法令出版) 新地理要点ノート(啓隆社) 地理ワークブック(愛媛県高教研地理歴史・公民部会地理部門) 地理統計要覧(二宮書店) 地理B一問一答(Z会)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代社会の地理的認識を養う。 ・地理学習を通じて、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
------	--

		学習計画及び内容		評価の観点					定期考査		
				①	②	③	④	⑤			
1 学 期	4月	第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 2章 資源と産業 流通と消費 3章 人口と村落・都市 4章 生活文化と民族・宗教	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の商業・観光・交通・情報通信を取り上げて、それぞれの特色と動向、形成要因に関して考察し、基礎的・基本的知識を習得する。 ・世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げ、形成要因に関して考察する。村落・都市に関する基礎的・基本的知識を習得する。 ・世界の衣食住を取り上げ、それらの分布と特色を理解し、地域性との関連を考察する。民族・宗教・国家の関連を理解し、基礎的・基本的知識を習得する。 			○	◎		第1回		
	5月										
	6月					○				◎	
	7月					○				◎	
2 学 期	8月	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 東アジア 東南アジア 南アジア 西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア 3章 現代世界と日本 分野別総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界が自然・政治・経済・文化などの指標によって様々な地域に区分できることを理解する。 ・世界の諸地域の事例を通じて、様々な地域の地域性を多面的・多角的に考察し、比較・関連付けることにより地域を地誌的にとらえる視点や方法を身に付ける。 ・日本が抱える地理的な課題を考察し、その課題を多面的・多角的に探究する。 ・演習問題に取り組むことで、総合的な力を養う。 			◎		○	第2回		
	9月										
	10月					○				◎	
	11月										第3回
	12月					◎	○				
3 学 期	1月	分野別総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・マーク式問題に取り組むことで、総合的な力を養う。 			◎		○			
	2月										
	3月										

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・地理や社会現象全般にわたる基本的知識を応用して、地理的思考力・考察力を養います。 ・具体的な地誌学習を通じて、世界各地の地域性や類似性・法則性、異文化の理解を目指します。 ・地球的な課題を広い視野から総合的にとらえ、その解決方法を深く考察します。 ・大学入試に向けて問題演習などを積極的に取り入れて、学力のレベルアップを目指します。
-------	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査に加え、提出物、小テストの成績、日頃の学習態度等を総合的に評価します。 ・地理的基礎知識はもちろん、地理的事象に関する興味・関心の程度、地図・図版・統計資料等を関連づけて、地理的な見方・考え方が身に付いたかを評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅲ	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	5単位	教科書	「数学Ⅲ」(数研出版)				
副教材	問題集「新課程 サクシード数学Ⅲ完成ノート」(数研出版) 「新課程 クリアー数学演習Ⅲ 受験編」(数研出版) 参考書「フォーカスゴールド 数学Ⅲ」(啓林館)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱでの復習をするとともに、関数の幅を広げて数学Ⅲの基礎力を向上させる。 ・演習においては、基本的な問題を解くことにより重要事項を再確認し、応用的な問題演習で論理的思考力を養うとともに、実力を身に付ける。
------	---

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	数学Ⅲ 第5章 微分法 第1節 微分と導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	○		◎			第1回
	5月	数学Ⅲ 第5章 微分法 第3節 導関数の応用 第4節 いろいろな応用		○	◎			
	6月	数学Ⅲ 第6章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分	○		◎			
	7月	数学Ⅲ 第6章 積分法 第3節 面積 第4節 体積 第5節 曲線の長さ			◎	○		
2 学 期	8月	(クリアー)						第2回
	9月	I 複素数平面			◎	○		
	10月	II 式と曲線	◎		○			
		III 関数	○		◎			第3回
		IV 極限			◎	○		
	11月	V 微分法	○		◎			
	12月	VI 微分法の応用			○	◎		
	VII 積分法			○	◎			
3 学 期	1月	VIII 積分法の応用			◎	○		
	2月							
	3月							

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は教科書と問題集(サクシード)を用いて、基礎力を養います。数学Ⅱでの既習事項を再確認し、数学Ⅲへと発展させていきます。 ・2学期は問題集(クリアー)により、基本問題から応用問題へと進み、入試対策への応用力を身に付けます。 ・年3回の定期考査や確認プリントなどを利用して、基礎学力の定着を図ります。
-------	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査に加え、提出物(週末課題、訂正ノート、クリアー演習ノートなど)、小テストの成績などを総合的に評価します。「知識・理解」「数学的な見方や考え方」などを考慮して総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 数学的な見方や考え方 ③ 数学的な技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学探究Ⅲ	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	2単位	主たる教材	「数学探究Ⅲ」(松山東高校数学科)				
副教材	問題集「改訂版 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編」(数研出版) 参考書「フォーカスゴールド 数学Ⅰ+A, 数学Ⅱ+B」(啓林館)						

学習目標 ・問題演習を通して、より高度な知識・技能を身に付けるとともに、センター試験・2次試験に対応できる学力を養う。
・答案の書き方や用語の使い方に留意し、数学的なものの見方・考え方を身に付け、論理的な思考力を養う。

		学習計画及び内容			評価の観点					定期考査
					①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第1章 数と式・方程式・不等式	・因数分解、根号を含む式の計算 ・絶対値と場合分け、1次不等式的应用	○			◎			第1回
	5月	第2章 2次関数	・2次関数のグラフと最大・最小 ・絶対値を含む関数のグラフ ・2次方程式・2次不等式的应用		◎	○				
		第3章 図形と計量	・ $90^\circ - \theta$ 、 $180^\circ - \theta$ の三角比 ・正弦定理・余弦定理と図形への応用	○			◎			
	6月	第4章 データの分析・集合と命題	・データの散らばりと四分位範囲 ・分散と標準偏差 ・逆・裏・対偶、必要条件・十分条件	○	◎					
		第5章 場合の数と確率	・順列、円順列、重複順列、組合せ ・重複組合せ、独立な試行の確率 ・反復試行の確率、条件付き確率		◎		○			
	7月	第6章 整数の性質	・約数と倍数、最大公約数と最小公倍数 ・1次不定方程式、n進法				○	◎		
		第7章 図形の性質	・三角形の辺の比と外心・内心・重心 ・方べきの定理、2円の関係		◎	○				
2 学 期	8月	第8章 いろいろな式	・二項定理、分数式の計算、恒等式 ・等式・不等式の証明 ・剰余の定理と因数定理、高次方程式		○	◎				第2回
	9月	第9章 図形と方程式	・直線上と平面上の点、直線の方程式 ・2直線の関係、円の方程式、円と直線 ・軌跡と方程式、不等式の表す領域			○	◎			
	10月	第10章 三角関数	・三角関数の応用、加法定理の応用 ・三角関数の合成	○		◎				
	11月	第11章 指数関数と対数関数	・指数関数の応用 ・対数関数の応用、常用対数	○	◎					第3回
		第12章 微分と積分	・導関数、接線、極大・極小、最大・最小 ・関数のグラフと方程式・不等式 ・不定積分、定積分、面積				○	◎		
	12月	第14章 数列	・等差数列と等比数列、和の記号 Σ ・階差数列、群数列 ・漸化式、数学的帰納法				○	◎		
3 学 期	1月	第13章 ベクトル	・ベクトルの演算・成分・内積 ・位置ベクトルと図形、ベクトル方程式 ・空間座標における図形とベクトル		◎		○			
	2月									
	3月									

学習の方法 ・演習中心の授業であるため、家庭での学習が重要になります。予習に力を注ぎ、理解できなかった問題は教科書や参考書で調べ、自力で解決しようとする姿勢が必要です。また、答案の書き方や用語の使い方にも配慮する必要があります。自分の考え方が相手に伝わるような答案を心がけましょう。
・授業中は説明をよく聞き、理解できなかった問題の解法や、自分の解法と違った方法についても理解するよう努めましょう。授業を受けても分からなかった場合は先生や友人に聞くことも大切です。

評価の仕方 ・定期考査に加え、週末課題やノートの提出、平常テストの成績などを総合的に評価します。
・予習の状況や授業中の態度なども評価の対象となります。数学的なものの見方や考え方が身に付いているか、数学に興味・関心を持っているかなど、総合的に評価します。

評価の観点 ① 関心・意欲・態度 ② 数学的な見方や考え方 ③ 数学的な技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし
(評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	理科	科目	物理	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	4単位	教科書	物理 改訂版(啓林館)				
副教材	セミナー 物理基礎+物理(第一学習社)						

学習目標	物理基礎との関連を図りながら、さらに進んだ物理学的方法で、自然の事物・現象を取り扱い、観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育むとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。
------	---

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第1編 様々な運動	・平面内の運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方に基づいて、力と運動に関する概念や原理・法則を学び、それらを活用できるようにする。 ・水面波、音、光など波動現象を観察・実験し、それらを日常生活や社会と関連づけて学ぶ。					第1回
	5月	第1章 物体の運動						
	6月	第2章 運動量と力積						
	6月	第3章 円運動と単振動						
	6月	第4章 万有引力						
7月	第5章 気体分子の運動							
7月	第2編 波動							
2 学 期	8月	第1章 波と音の性質	・物理基礎で静電気や電流、電磁波を学んだ。電気や磁気の性質をさらに深く掘り下げて学ぶ。 ・電子、原子および原子核に関する現象を観察、実験などを通して探究し、原子についての基本的な概念や原理・法則を学ぶ。					第2回
	8月	第2章 光の性質						
	10月	第3編 電気と磁界						
	10月	第1章 電気と電位						
	11月	第2章 電流						
	11月	第3章 電流と磁界						
	12月	第4章 電磁誘導と電磁波						
12月	第4編 原子と分子の世界						第3回	
12月	第1章 電子と光							
12月	第2章 原子と光							
3 学 期	1月	終章 物理学が築く未来	・問題解決学習を行い、物理の知識を定着させる。					
	2月	学習のまとめ						
	3月							

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・暗記のみにとどまることなく、物理にとってその現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
-------	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・3回の定期考査と観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	理科	科目	化学	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	4単位	教科書	改訂版 化学(数研出版)				
副教材	スクエア最新図説化学(第一学習社) セミナー化学基礎+化学(第一学習社)						

学習目標	1 化学的なもの見方や考え方を身に付ける。 2 生徒自身が課題を見つけ、主体的・意欲的に実験、観察を行うことで科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を深く系統的に理解させる。
------	--

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析	◎	○				第1回
	5月	第2章 脂肪族炭化水素		○		◎		
	6月	第3章 アルコールと関連化合物						
	7月					○	◎	
2 学 期	8月	第4章 芳香族化合物			○	◎	○	第2回
	9月							
	10月	第5編 天然有機化合物 第1章 天然有機化合物	◎				○	第3回
	11月	第2章 天然高分子化合物		○			◎	
3 学 期	12月	第6編 合成高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質					○	◎
	1月	第2章 合成高分子化合物		◎				
	2月							
3月								

学習方法	<p>・毎日の授業を大切に、授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。化学式や化学反応式を単に暗記するのではなく、なぜそうなるのか理由を考え、系統立てて学習していくことが大切です。</p> <p>・科学的に探究する力や態度を育てるためには、実験や観察を積極的に行うことが大切です。短時間で構いませんから予習を確実にし、自分が何をするのか理解してから臨みましょう。</p>
------	---

評価の仕方	<p>定期考査に加え、授業中に行う小テストや提出物(実験ノートなど)を総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や実験への参加姿勢も含めて総合的に評価します。</p>
-------	---

評価の観点	<p>① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)</p>
-------	--

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	理科	科目	生物	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	4単位	教科書	改訂版 生物 (数研出版)				
副教材	ニューステージ新生物図表 (浜島書店) セミナー生物基礎+生物 (第一学習社)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育む。
------	--

		学習計画及び内容			評価の観点					定期考査	
					①	②	③	④	⑤		
1 学 期	4月	第2編 生殖と発生	第4章 生殖と発生	・生物の生殖や発生について観察、実験などを通して探究し、動植物の配偶子形成から形態形成までを理解する。	○		◎			第1回	
	5月	第1編 生命現象と物質			第1章 細胞と分子 第2章 代謝 第3章 遺伝情報の発現	・生命現象を支える物質の働きについて観察、実験などを通して探究し、タンパク質や核酸などの物質の働きを理解させ、生命現象を分子レベルでとらえる。			○		◎
	6月	第3編 生物の環境応答	第5章 動物の環境応答	・環境の変化に生物が反応していることについて、生物個体が外界の変化を感知し、反応する仕組みを理解する。							
	7月	第6章 植物の環境応答							◎		○
2 学 期	8月	第4編 生物と環境	第7章 生物群集と生態系	・生物の個体群と群集及び生態系について観察、実験などを通して探究し、それらの構造や変化の仕組みを理解させ、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。	◎	○			第2回		
	9月	第5編 生物の進化と系統			第8章 生命の起源と進化	・生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、観察、実験などを通して探究し、生物界の多様性と系統を理解させ、進化についての考え方を身に付ける。					
	10月	第9章 生物の系統					○	◎	第3回		
	11月										
3 学 期	12月										
	1月										
	2月										
	3月										

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・生物現象を考える中で、化学の知識を活用しながら探究的な学習を行うこと。 ・遺伝子の分野は日進月歩であるので、新しい知識を積極的に吸収し、副教材や文献を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
------	---

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・3回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	保健体育	科目	体育	学年	第3学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）				
副教材	図説 現代高等保健（大修館書店）						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の合理的な実践を通して、運動能力を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに自身の体の調子を整え、体力の向上を図る力を養う。 ・公正・協力・責任などの社会的態度を育て、生涯を通じて明るく豊かで活力のある生活を営む資質や能力を育てる。
------	--

	学 習 計 画 及 び 内 容			評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・東高体操や集団走を正確に身につける。 ・体ほぐしの運動や体力を高める運動を通し、その方法を学習する。 ・テニス、ソフトボール、バレーボール、バドミントンの中から選択し活動する。 ・安全に留意する態度を養うとともに自らの体力に応じて学習する。 ・体ほぐしの意義と体力の高め方について学習する。 ・運動会集団演技の練習を行う中で、体力を高め、集団の中での協調性を養う。 	◎	◎	◎	○		
	5月	球技選択Ⅰ		◎	◎	◎	○		
	6月			◎	◎	◎	○		
	7月	体育理論 体づくり運動・ダンス		◎	○	○	◎		
2 学 期	8月	体づくり運動・ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わう。 ・運動技能の構造と運動の学び方について学習する。 	◎	◎	◎	○		
	9月			◎	◎	◎	○		
	10月	体づくり運動・持久走		◎	◎	◎	○		
	11月			◎	○	○	◎		
12月	体育理論	◎	○	○	◎				
3 学 期	1月	球技選択Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントンの中から選択し活動する。 	◎	◎	◎	○		
	2月								
	3月								

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の「東高体操」や「集団走」などみんなで一生懸命に授業に取り組むことを大切に授業を行っていきます。東高生として、授業へ取り組む真面目な姿勢が大切です。 ・運動技能の基礎基本を確実に学習し、仲間とともに体を動かす楽しさと喜びを味わい、自らの体力に応じて、自分の可能性に挑戦していきます。
-------	---

評価の仕方	各種目や内容について、運動技能だけでなく、授業に対する意欲や運動やスポーツへの関心、一生懸命に頑張る態度など総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断 ③ 運動の技能 ④ 知識・理解 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅲ	学年	第3学年	類型	共通
単位数	4単位	教科書	Rivised POLESTAR English Communication III (数研出版)				
副教材	「Change the world [Approach]」(いいずな書店)		「English Generator 4500 Plus」(いいずな書店)				

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件に合わせて、即興で話したり、伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。 情報や考えなどを聞いて、質問したり意見を述べたりし話題を発展させることができる。 立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べるることができる。 	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 論点や根拠などを明確にし、文章の構成を考えながら書くことができる。 説明や描写の表現を工夫して、相手に効果的に伝わるように書くことができる。 効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理して書くことができる。
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 対話や説明などを聞いて、情報や考えなどを的確に理解したり、概要や要点をとらえたりできる。 未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用したりしながら聞くことができる。 主題と詳細情報を区別しながら理解できる。 	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 書かれた情報や考えなどを的確に理解したり、概要や要点をとらたりすることができる。 速読したり、精読したりするなど、目的に応じた読み方をするすることができる。 書き手の意図などを正確に理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査	
			①	②	③	④	⑤		
1学期	4月	Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化社会における介護ロボットの重要性やその問題点などにもついて考え、自分の考えを表現する。 	○	◎	◎	○		第1回
		Lesson 2	<ul style="list-style-type: none"> 英語を社内公用語にする事の利点・問題点について理解を深める。また、英語を公用語にする会社に入りたいか否かについて意見を交換したりする。 	○	◎	◎	○		
	5月	Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> 食品廃棄物に関する英文を読み、莫大な量の食品が捨てられている現状について理解を深める。 廃棄物を減らすためにできることについて考えたり、自分の意見を表現したりする。 	○	◎	◎	○		
	6月	Lesson 4	<ul style="list-style-type: none"> 将来の職業選択について理解を深めるとともに、人生で成功するために大切なことについて考えたり、自分の意見を述べたりする。 	○	◎	◎	○		
		Lesson 5	<ul style="list-style-type: none"> さまざまなコミュニケーションとその文化的背景について理解を深めるとともに、効果的なコミュニケーション方法について考える。 	○	◎	◎	○		
	7月	Lesson 6	<ul style="list-style-type: none"> 今治タオルの復活についての文章を読み、日本の繊維産業で起きた改革について理解を深める。 世界に誇る日本の物作りについて考えたり、自分の意見を表現したりする。 	○	◎	◎	○		
2学期	8月	Lesson 7	<ul style="list-style-type: none"> 日本における英和辞典についての文章を読み、日本最古の英和辞典を作った堀達之助と英和辞典の歴史について理解を深める。 自身の英語学習や英語の辞書について説明したり、自分の意見を表現したりする。 	○	◎	◎	○		第2回
	9月	Lesson 8	<ul style="list-style-type: none"> 『Lady, or the Tiger? (女か、虎か)』という物語を読み、人生における「正解のない問い」に出会った際に答えを出すために必要なものは何かを考える。 	○	◎	◎	○		
	10月	Lesson 9	<ul style="list-style-type: none"> 麗江古城についての文章を読み、世界遺産や麗江古城について理解を深める。また、世界遺産に登録されることの是非について考えたり、自分の意見を述べたりする。 	○	◎	◎	○		
	11月	Lesson 10	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙開発や宇宙で野菜栽培を行うことの意義について理解を深める。また、宇宙農業の課題について考えたり、自分の意見を言ったりする。 	○	◎	◎	○		
		Lesson 11	<ul style="list-style-type: none"> 記憶術についての文章を読み、記憶術の種類とその歴史について理解を深める。また、自分の知っている記憶術について自分の言葉で話す。 	○	◎	◎	○		第3回
	12月	Lesson 12	<ul style="list-style-type: none"> 世界の飢餓や伝染病の状況について調べたり、それについて話し合ったりする。 	○	◎	◎	○		
		Lesson 13	<ul style="list-style-type: none"> ホセ・ムヒカ氏の演説を読み、よりよい社会をつくるために、どのような方法をとるべきかについて考える。 	○	◎	◎	○		
		Lesson 14	<ul style="list-style-type: none"> エスカレーターの乗り方のマナーについて読み、日本での「歩行禁止」キャンペーンについて理解を深める。エスカレーターの乗り方について考えたり、自分の意見を述べたりする。 	○	◎	◎	○		
	Lesson 15	<ul style="list-style-type: none"> 児童書を性別で分類することに反対するキャンペーンについて読み、性差の固定概念が及ぼす影響について理解を深める。 	○	◎	◎	○			
3学期	1月	Lesson 16	<ul style="list-style-type: none"> 生まれつきの才能に関する研究についての文章を読み、才能と努力の関係について理解を深める。 才能を伸ばすことや努力することについて考えたり、自分の意見を言ったりする。 	○	◎	◎	○		
	2月								
	3月								

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> メモや写真等を利用しながら与えられたテーマについて話す。 本文の内容に関する英問に英語で答える。 キーワードを使って本文の要約を相手に口頭で伝える。
------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト 単元テスト、単語テストなどの小テスト
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 表現能力 ③ 理解能力 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

2019年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	2単位	教科書	Departure English Expression Ⅱ Revised (大修館書店)				
副教材	「英語の構文150 UPGRADED 99 Lessons」(美誠社)		「作文と解釈の16章」(美誠社)				

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた場面において、状況や立場に応じて自分の用件を正確な英語で伝えることができる。 英文の内容に関する質問について、根拠文を正しく捉え、自分なりの英語で答えることができる。 与えられたテーマについて、自分の考えを即興で相手に伝えることができる。 	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて、賛成・反対の立場とその理由を具体例を示して書くことができる。 自分の意見や考えを段落構成を考えながら100語程度で書くことができる。 英文の内容について、自分なりの英語で要約することができる。
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 対話や説明などを聞いて、キーワードを捉え、大意を把握することができる。 英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて英文の内容を正しく聞き取ることができる。 	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 説明文やエッセイ、対話形式など様々な形態の英語を、重要な事実を捉えながら正しく読み取ることができる。 英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて正確に音読することができる。

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学期	4月 Part 3 Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を整理してまとめて表現する。 英語学習の意義や利点について、データをもとにブレインストーミングをする。 	○	◎	◎	○		第1回
	5月 Part 3 Lesson 2	<ul style="list-style-type: none"> 賛成・反対の立場に立って、自分の意見を表現する。 自転車の免許制に反対する立場から、データをもとにブレインストーミングをする。 	○	◎	◎	○		
	6月 Part 3 Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> 物事の長所・短所を考えて、自分の意見を表現する。 電子書籍の例を参考に電子辞書の長所と短所をブレインストーミングする。 	○	◎	◎	○		
	7月 Part 4 Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> Show & Tellで自分の意見を伝える。 電子書籍の例の文章を参考にし、肉付けをした各文をまとめ、電子辞書について4つのパラグラフで書く。 	○	◎	◎	○		
2 学期	8月 Part 4 Lesson 2	<ul style="list-style-type: none"> Speechで自分の意見を伝える。 書いた原稿を暗記し、大切なポイントを理解して何度も練習をしてからグループで発表する。 	○	◎	◎	○		第2回
	9月 Part 4 Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> Presentationで自分の意見を伝える。 質問を頼りに、環境のためできる身近なことについてブレインストーミングをする。 	○	◎	◎	○		
	10月 Part 5 Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> Mini-Debateで意見の交換をする。 提示された論題に対して、肯定側・否定側双方の立場から、できるだけ多くの理由を考え、Constructive Speechを作成する。 	○	◎	◎	○		
	11月 Part 5 Lesson 2	<ul style="list-style-type: none"> Debateで意見の交換をする。 Constructive SpeechのアウトラインにSupportingを付け加えてスピーチを完成する。 	○	◎	◎	○		第3回
	12月 Part 5 Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> Panel Discussionで意見の交換をする。 提示されたテーマについての現状を、さまざまな角度から分析する。 	○	◎	◎	○		
3 学期	1月							
	2月							
	3月							

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて、英語で分かりやすく話す。 与えられたテーマに関して、ある程度まとまった文章を書く。 与えられたテーマでディスカッションやディベートをする。
------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト 単元テスト、単語テストなどの小テスト
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 表現能力 ③ 理解能力 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---